



富士登山

ふちんかん

さて、富士山である。5年前に S さんが書かれているように、日本人なら一度は登ってみたいと思う日本一高い山である。私も学生の頃からその思いがあった。しかし、逃げるものでもないのだから、そのうちに、と延ばし延ばしするうちに、いつの間にか、生きていく間の目標となってしまった。そして家族を持ち、今度は家族全員で登山できたらいいだろうなあと思うようになってまた幾年月。

子どもたちは成長し、これからは家族旅行について来てくれなくなるかもしれない。また私には体力的な不安が出てきた。富士山に登るのは、もう今しかないのでは、という気持ちが高まってきた。そこで今年！ついに登山することを決意した。

富士山について

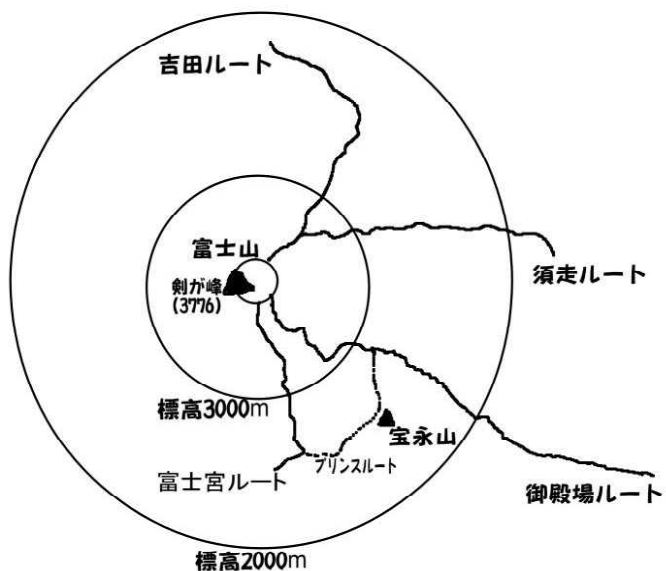
ご存じのように山梨県と静岡県にまたがる日本で一番高い山である。登山は7月から8月に限られる。それ以外の時期は山小屋が営業していないし、公的には登山道は閉鎖されている。だが2ヶ月という短い時期に、30万人を超える登山者が押し寄せるわけで、その人気ぶりがうかがい知れるというものだ。

富士山の登山道

登山道は4つある。

一番利用者が多いのが北側の「吉田ルート」(山梨県)、つぎに多いのが、南側の「富士宮ルート」(静岡県)、そして東側ルートとして静岡県の「須走ルート」と「御殿場ルート」がある。吉田ルートと須走ルートは8合目で合流している。

山容からわかるように、どのルートも高度が上がるほど傾斜がきつくなる。





富士登山



吉田ルートは登山者の6割近くが利用するメジャールートで、山小屋の数も多く、安心である。しかし関西からは登山口へのアクセスが悪いのと常時混雑（というより渋滞）する。富士宮ルートは関西からのアクセスも最も良いルートである。傾斜が最もきついが、距離が短い分だけ短時間で登れるのが人気で、約25%が利用する。須走ルートは約15%の利用者、御殿場ルートは3%の利用者にとどまる。須走ルートも御殿場ルートも帰りは「砂走り」とよばれる駆け下りるような下りルートがあり魅力的なのだが、アクセスの問題や登頂までの距離が長くなるという問題で、あまり人気がない。

宝永山

江戸時代の宝永大噴火で誕生した富士山の側火山である。富士宮ルートと御殿場ルートの間であり、富士宮ルートと御殿場ルートの間を結ぶプリンスルートの経路でもある。今回は練習登山で利用した。

日程

決行を7月末の平日と決めた。8月になると雷や夕立が増えるため、できるだけ梅雨明け直後が望ましい。もちろん週末はたいへんな混雑なので、時間が取れる身としては平日だ。ルート選択は、体力と登山時間の兼ね合い、山小屋の快適さ、影富士やご来光・砂走りの体験などを重視し、熟考に熟考を重ねた。結果、富士宮ルートから御殿場ルートに渡り、山小屋で宿泊し、翌朝に頂上へアタックし、御殿場ルールで下るというプランに決定した。

服装・装備

富士登山には、登山靴やザック(リュック)など一般的な登山用品が必要である。とくに靴は岩場が多いためハイキングシューズではなく、ソール(底)のしっかりしたものが良いとされる。

山頂と麓の温度差は20度以上になるため、冬の服装が必要である。また防寒と雨対策のため、登山用のレインウェアも必須となる。

他には帽子、手袋、速乾シャツやフリースなどなど。登山一般に言えることだが、悪天候の時、山小屋にたどり着くまでの身の安全は各自の責任である。

装備としては、ストックや金剛杖、ヘッドランプ、ズボンと靴の間に砂が入らないようにするスパッツ、ゴーグル、日焼け止め、菓子類、飲料水など…普段山登りなどしない人間にとっては、けっこうモノの準備が必要となる。

さて、ここまで書いたことはネットでも十分に手に入る情報だが、富士山関係のムック本は買うと良いと思う。見ているだけでも登山に行くテンションが上がる。うちの家族はそれほど富士山に登りたいという意志が強かったわけではなかったの、リビングに置いておくことは効果があったと思う。

今回買ったムック本

「るるぶ富士山'12」「富士山チャレンジサポートBOOK 2012」



予約

人気の山小屋は前年に予約が埋まるとも聞いていた。私が使う山小屋はそこまでの必要はないが、6月の早い時期に予約をしておいた（まだ山小屋自体は開いていないので経営者の自宅に電話した）。

その後、服装・装備のうち、高価であったり再利用する可能性の少ないモノは、レンタル業者を利用することにして予約した。なにせ家族4人分である。すべて買うことはムリであり、一回キリだとムダになることが多いという判断である。ネット上のレンタル業者にあらかじめ利用する日を伝え、3日前までに商品が届く（サイズが合わなければ再度送ってくれる）。利用した翌日までにコンビニなどから返却すればよい。洗う必要もなく手軽である。まあ2回以上使うならアウトドアショップで買って値段的に変わらないモノもあるが、置き場所や子どもの成長を考えるとレンタルは合理的である。……とは言っても、けっきょく後で買ったものも多いのだが。

今回利用したレンタル品

私と相棒が使うザック、相棒と子ども二人分のレインウェア（スパッツ付）、
ストック1セット ……2日間利用で計14600円也

新たに購入したモノ

まずは登山靴。私の履いていた軽登山靴はソールが剥がれ使い物にならず買い換え。足のサイズが確定しない子ども用は、はじめレンタルするつもりだったが、練習登山に行くことになり、2回使うとなるとレンタルも購入も変わらなくなってしまっているので、こちらを購入することになった。相棒用は買って17年になる軽登山靴があり、こちらは無事そうだったので、購入せず（後でエライ目に遭うのだが）。

レインウェアは基本レンタルであるが、私用はドンキの中では一番高い物を購入、まあ私はこれからも山に行くかもしれないし、天体観測でも使う可能性がある。

ストックについては、子どもたちは現地で金剛杖を買うというので、私用に安物をワンセット購入。また人生初となるウェストポーチも購入。アメやタブレットをすぐに出せるように、また歩きながら写真を撮るのに便利だと思ったからだ。

速乾シャツは、全員分を購入。これは今後も使える。

ヘッドランプとスパッツは **amazon** で安物を購入。とりあえず使えればいい。

ほかに酸素缶や酸素タブレットなどをアウトドアショップで購入、

ホームセンターで作業用の安全めがねや防塵マスク、ドラッグストアで日焼け止め、ゼリー飲料、アメや塩タブレットなどの菓子類を購入した。

登山という普段の旅行とは違う体験をするためには、けっこうお金がかかるのだ。

まずは装備品の使い試しということで、近くの滝を巡る散歩を試してみた。そして本番の2週間前には、日帰り弾丸ツアーで宝永山登山を実施した。



富士登山



練習ハイキング 2012.07.08

富士登山をひかえ、新たに購入したシューズの試し履きをかねて、家族でハイキングをした。目指すは山本・雲雀丘間の山中にある最明寺滝。この日は、梅雨まったく中ながら好天で、しかも心地よい風の吹くハイキング日和だった。

約3時間のハイキングでまずは足慣らし。

練習登山 2012.07.16

富士登山の前哨戦って位置づけで日帰り登山を敢行した。実際に山に登ってみて、高地に慣れること、ペース配分、必要な装備などの確認をするためである。

海の日を含む3連休、できれば初日に行きたかったのだが悪天のため断念し、けっさく最終日の7/16(祝)に行ってきた。

15(日)の夜11時に出発、金環日食撮影行と同じ経路(新名神・新東名経由)で、御殿場IC着が翌朝4:00。

IC付近のコンビニで食料・水を購入し、麓の水ヶ塚公園駐車場に5:00着。



御殿場からの富士スカイライン途中で夜明け



水ヶ塚駐車場から宝永火口と富士山

ここで食事や着替え・身支度をして、6:00、始発の登山バスで富士宮5合目へ向かう。ちなみに本来は5合目までは車で上れるのだが、渋滞対策のためハイシーズンはバスやタクシーしか入れないようになっている。仕方なし。ちなみにバス代は、大人往復1300円、子ども650円、家族4人で4550円、しかも駐車場代も1000円。けっさ高いが、まあ入山料と考えることに。

富士宮ルート5合目まで約30分、6:30到着。



富士宮5合からの眺め 下界に雲が見える



靴ひもをしっかりと締め直す



27周年記念原稿



ここ5合目で1時間ほど滞留する。高地に身体をなじませるためだ。これをしないと高山病の症状が出やすくなると言われている。特に富士宮ルート登山口（5合目）は、他の登山口と比べると標高が2400mと高いので、しっかりと高地順応のための休憩は必要であろう。この間にお土産屋を物色したり金剛杖を購入したりした。また「まいにち富士山」で有名な佐々木さんをお見かけした。

7：30 登山開始。

6合を目指して、家族にとって初めての登山である。

5合から歩き出してすぐのトイレは新しくきれいである。ちなみに富士山ではトイレは全て有料である（硬貨を箱に入れるタイプ）。

8：15 富士宮6合目到着

けっこう時間がかかった。6合の雲海荘で金剛杖に初めての焼き印を押してもらった。200円也。焼き印は有料でだいたい300円までである。

ここの焼き印は、熱した平らな板に金剛杖を押しつけ烙印するタイプ。他の山小屋のように熱したコテを金剛杖に押しつけるより安定するため、きれいである。



8：30 富士宮6合目出発

ここからは多くの登山者がめざす頂上への道とは異なり、宝永山へ向かう。こちらのルートは皇太子が富士山に登頂したとき利用したということで「プリンスルート」と名付けられ、近年人気らしい。まあ後述する理由から登りのルートとしてはおすすめしないが、20分ほどで宝永山と火口を眺めるポイントに到着。



ここからは火口の底をめざして下る。



9：10 宝永山火口着

ここにはベンチもあり、ここで折り返すならちょっとしたハイキングとして良いと思う。





富士登山



9 : 30 出発…ここから先は地獄ルート。

ひたすら砂礫の道を登っていく。火山礫がくだかれたふかふかの道、いわゆるザレ場という状態の道で、たいへん登りにくい。出した歩幅の半分以上が滑って無駄になる感覚でなかなか前に進めない。

しかも山小屋などの目印がないので、心が折れそうになる。



しかし私が弱音を吐くと、すぐさま全員がきびすを返すような家族なので、あと少しあと少しと勇気づけながら登った。これくらいでへこたれていては本番の富士山登頂は難しい。

青空と美しい雲を眺めながら…写真を撮りながら…、少しずつ登ることにした。

この日はとても風の強い日だった。途中まで強風に背中を押されるように登れたことは不幸中の幸いだった。逆に帰りは細かな砂や火山灰が風にあおられて飛んでくるのだが、ホームセンターで購入しておいた安全めがねと防塵マスクが役立った。

10 : 40 宝永山（馬の背）

火口底から1時間強、5合目から3時間強かかって、ようやく宝永山に到着。

山頂付近にある馬の背と呼ばれるところは強風のメッカで、立ってられないくらい強い風が吹いていた。服が風をはらみ、下娘は本当に風に飛ばされそうになったので、風の弱い登山道に戻した。





27周年記念原稿



馬の背を歩く上娘 左下が宝永火口



宝永山頂2693m 富士山を背景に



帰りはうって変わって快適。出した歩幅以上に下る感じでサクサクと歩が進む。砂走りの魅力を実感した。

行きの半分の時間で5合目に戻った。

その後はバスに乗って水ヶ塚駐車場へ戻りマイカーで帰路に。



途中、富士宮焼きそばの店で昼食。

帰路の後日談……

3連休の最終日ということで東名高速の豊川あたりが大渋滞。疲れもあって事故ってはシャレにならないので、急遽、浜松 SA で高速を降り、ネットで確保したリゾートホテルに泊まることに。翌日は仕事&学校なので、夜の8時に着いて、翌朝2時チェックアウトと本当に泊まるだけ。

大浴場に露天風呂まであり、短時間利用とはもったいない良い宿だった。

この日は浜松 SA で渋滞情報を眺めて逡巡しているところ、Tさんに会ったり、泊まったホテルは5月の金環日食を撮影したポイントの間近であったり、面白い偶然が重なった。

ちなみに翌朝は5時過ぎに帰宅。大人は出勤、子どもは通学へ…。さすがにこの日はしんどかった。

そして日焼け止めを塗らなかつた手の甲（ストックを持っていたので常に日差しにさらされていた）が赤く腫れ上がり痛かった。日焼け止めは首や鼻、耳の後ろ以外にも手の甲に塗ること。安全めがねや防塵マスクにしても、こういうことは現地に行かないとわからないことだ。練習登山の収穫である。



富士登山



富士登山① 行程

(すまん、ようやく本編だ)

7/29 (日) 大井川鉄道の観光 沼津のビジネスホテル泊

7/30 (月) 御殿場ルート5合目駐車場に駐車、タクシーで富士宮ルート5合へ

富士宮ルートで登山、8合目から御殿場ルートへトラバースし、
御殿場7合9勺の赤岩八合館泊

8/1 (火) 高山病症状の家族を先に7合5勺へ下山させ、単独で登頂。

その後、合流し、御殿場ルート5合目へ下山。富士のビジネスホテル泊

8/2 (水) 田子の浦、清水の水族館・エスパルズドリームプラザ見学、帰路につく。

前後一泊ずつを含めて、3泊4日の行程である。



富士登山② 登山開始～富士宮8合

沼津のビジネスホテルを4時前に出て、沼津 IC から東名道へ入る。このあたりでは、かなりの強さで雨が降っていたが、御殿場 IC に着く頃には晴れていた。

5月の金環日食撮影行、2週間前の練習登山に続き今年3度目となる御殿場 IC すぐのコンビニで食料調達をする。

5時過ぎに御殿場ルート5合目 (標高 1400m) 駐車場着。



27周年記念原稿



ここで車を1日半放置する。翌日の夕方に御殿場ルートで戻ってくる予定である。



御殿場5合目から眺める
宝永山(左)と富士山(右)

ここから富士宮5合(標高2400m)へタクシーで移動する。電話でタクシーを呼んでいる間に、あらかじめ登山用品の入っているリュックに食料などを詰めて準備終了。

タクシーは水ヶ塚駐車場を越えて5合目まで入ることができる。6:30 富士宮5合目に到着。

けっきょく予行で乗った始バスと同じくらいの時刻になった。

タクシー代約 5500 円。まあ予定通り。この額は予行の時、水ヶ塚駐車場に止めて、家族4人がバスに往復乗ったときの料金と同じだ。

つまり支払い額は変わらず、下山ルートを変えるための行動ということである。

なぜこんな事をするのかというと、御殿場ルートの下りは大砂走りという魅力的なルートであり、是非とも下りは御殿場ルートを使いたかったからだ。しかし御殿場ルートの上りは、スタート地点が富士宮ルートに比べて標高で1000mも低く、しかも練習登山で苦渋を味わったザレ場が延々と続く。さらに7合目まで5時間以上も山小屋がないというDMルート。そのためこの上りはよほどのマニアしか使わないというルートである。御殿場ルートの利用者が全体の3%しかいないというのは、こういう理由がある。ちなみに富士登山マラソンのコースになっている。

上りは富士宮ルート・下りは御殿場ルートを使いたい。今回はそんな希望を実現するためのプランである。



ランチパック、気圧差のため既にパンパン

さて、2度目の富士宮5合である。ここで麓のコンビニで買ってきたパンやおにぎりなどを食べて朝食とし、高度順応のための時間をつぶした。

本日も天気がよい。今回、天候には非常に恵まれている。

7:20 5合目(標高2400m) 出発

登山開始である。ただし登り始めてすぐのきれいなトイレで約10分休憩しているので、実質は7:30スタートだ。

6合目までは予行で通ったルート。

8:10 6合目(標高2490m) 到着

まあココまでは余裕。

標準タイムの2倍の40分かかっている。





富士登山



8：20 6合目出発。

さあ、ここからが本格的な富士登山である。ただ予行の宝永山で鬼畜ザレ場地獄を味わっているの、多少の斜面程度ならまあ我慢できる、かなという感じである。

つづら折りの斜面をゆっくり・ゆっくり登る。あそこまで登ったら休憩、4つ曲がったら休憩、など、こまめに目標を作った。

そして、そのつど立ち止まってアメやキャラメルなどを子どもたちに配給する。もちろん私も口に入れる。すぐに取り出せるようにウェストポーチを購入して正解であった。



6合目山小屋・雲海荘
ここまでは観光地である。

ムック本の受け売りだが、ヒトはデンプンなどを消化し蓄えた糖分を使って運動をする。それが無くなると脂肪を分解して新たな活動エネルギーの元とするのだが、それには時間がかかる。糖分の欠如と脂肪の分解の間に時間差が生じると急に疲れを感じる、いわゆるシャリばてという状態になるらしい。さらに脂肪が無くなると筋肉を損傷してまでエネルギーを作るとのこと。それが恐ろしいので登山中は常にアメ・キャラメルを口にして糖分を補給するのだ。

水分も少しずつこまめに取っている。水分が汗で出て行くと、その分体内の水分が少なくなり、血液の循環が悪くなる。すると体中の細胞への栄養分の配給が滞ったり、体温が上がる原因になったりするのだ。今回の登山では一人あたり2リットルの水とゼリー飲料3個を持っている。家族への水分と糖分（塩分も）の供給は、かなり意識して行った。

ちなみにアメなどで糖分や塩分を取っているの、水分は普通の水が一番おいしいと感じた。

登るペースもゆっくりだ。家族全員が急坂を登るペースをつかむのに時間がかかったと言う面もあるが、時間をかけて登ることを意識した。



立ち止まるたびに宝永山を見る角度が下がっていくので、間違いなく高度は上がっている。しかし休憩目標である新7号目の山小屋は、これがなかなか近づかない。すぐそこに見えているのだが……。

ここでアクシデント発生。相棒のトレッキングシューズの底（ソール）が剥がれてしまった。しまった！油断である。



27周年記念原稿



この靴も17年選手なのであり得ないことではないが、こんな場所で……。ネットでは、そういうこともあるから、ガムテープを少し切って丸めたモノを持っていくと良い、と書いてあった。しかし…忘れていた。とにかくだましまし新7合目をめざす。

10:20 新7合目(標高2780m)到着。

約2時間かかった。標準タイムが1時間の区間なので、こどもも2倍かかっている。まあアクシデントもあり、意識してゆっくり登っているので、こんなものだと思う。



山小屋で運動靴を売っているとのこと。渡りに船だったのだが、相棒のサイズに合う小さな運動靴が無い!

そこで山小屋の兄さんが親切にもロープワークでソールを固定してくれようとしたのだが、けっきょくすぐに外れてしまう。



仕方ない、靴下を重ね履きすることで対応することにして、一番小さなサイズの運動靴を買うことにした。壊れた登山靴はこの場で遺棄、靴代以外にゴミ捨て代もかかるが仕方ないだろう。

10:50 新7合目出発。



宝永山ははるか眼下になった。入道雲も出始めて夏らしい景色ではあるが、雷が心配である。

11:50

標高3000mの標識を越える。



12:00

元祖7合目(標高3010m)到着



富士登山



新7合～元祖7合間は標準タイム50分なので+20分で登った。慣れてきたのか、だいぶ登山らしいペースになってきた。

しかし、あとで聞いたら、相棒殿はかなりしんどかったようだ。

元祖7合で持ってきた食料の残りを食べ、軽い昼食とした。

12:20 元祖7合目出発



元祖7合を出たあたりで一瞬雲が出てきて不安になったが、すぐに通り過ぎた。

ここまで休憩は、立ち止まった状態で糖分・水分補給をするなど、極力、腰を下ろすことはしないようにしていたが、さすがにバテてきたか、座り込んで休憩することも出てきた。

私自身もしんどかったのだろうか、あまりこの区間の記憶がないし、あとで見返してみると、写真も少ししか撮っていない。

13:30 八合目到着 (標高3250m)



標準タイムが40分なので、+30分、またペースダウンである。

ただ計画でも標準タイムの1.5倍～2倍程度を見込んでいたので、まあ予定通り。



27周年記念原稿



普段運動しないメンバーにしては頑張った方だろう。

さて、ここからは二つのプランを考えていた。

- ① 時間と体調と天気、全ての条件で **OK** なら、そのまま頂上まで登り、頂上から御殿場ルート7合9勺にある山小屋に下り宿泊する。
- ② 条件が整わないようなら、現在地富士宮ルート8合から御殿場ルート7合8勺へ渡り（トラバース）、7合9勺にある山小屋まで登り宿泊する。

今回の場合、まず私以外の3人が体力的に難しいそうだったこと（いや私もか?）、ここから3776mまでは標準タイムで2時間かかるので時間的にも厳しいこと、この二点から本日の頂上への計画は見送ることになった。

ただ高山病のことを考えると、標高3300mという高地に宿泊することは良いことではない。寝ている間は呼吸が浅くなるので、体内の酸素濃度が下がり高山病になりやすいと言われているのだ。また明日も天気が良いとは限らない。しかし、これからの登頂は物理的に無理な以上はプラン②しかない。登頂は明日の天候・体調にかけることになった。

富士登山③ 富士宮8合～御殿場7合9勺

13:50 八合目出発

トイレ小屋の裏から御殿場ルートへトラバースする道に行く。

このルートは富士宮ルートからは「ゆるやかに禁止」されているルートである。逆に御殿場ルートの山小屋からは「楽に登れる」として「推奨」されているルートでもある。

富士山の登山ルートは4本あるのだが、いずれも管理する行政区域が異なっており、縄張り意識が強い。wikiを見ると江戸時代から利権がらみの争いが多かったようだ。

現代でも富士宮6合から御殿場6合へ渡るプリンスルートは例外として、ルート間の移動を認めるような記述は一切無い。何かあったときの責任問題がハッキリしないことが原因だろう。

ちなみに8合目より上は、登山道や測候所を除くと、どこの行政区にも属さない浅間大社の境内ということになっている。

今回「ゆるやかに禁止」されているルートに行くことには、計画段階ではかなり逡巡があった。しかし初心者で、かつ体力もない4人家族にとって、もっとも登頂の可能性が高まるルートということで選択した。



富士登山



もちろん富士宮ルートでそのまま登頂して、御殿場ルートへ降りることが一番だったのだが、前述の体力と時間の理由により今回は無理である。

かくなる上はここから御殿場ルートの宿泊地を目指すしかない。……手製の通行禁止の標識や低いバリケード？をまたいで、若干の後ろめたさを感じつつのトラバース決行である。

何かあったら自己責任……（まあどんな登山道でもそうなのだが）。



途中で雪渓があった。

このルートは基本、平行移動なので上りになれた身体にはかなり楽である。



14 : 15 御殿場ルート合流

ここからはまたも九十九折りの坂道を登る。目標の山小屋はすぐそこだが、なかなか。休憩で見下ろした先に宝永山が見える。

14 : 45

御殿場7合9勺（標高3310m）

赤岩八合館に到着

登山開始から7時間25分である。

赤岩八合館では下山途中の佐々木さんと出会う。佐々木さんは常に富士宮ルートで往復されているのかと思い込んでいたので、意外に思って質問してみたたら、復路は御殿場ルートのことが多いそうだ。





富士登山④ 赤岩八合館にて

さて、今回宿泊する赤岩八合館は……

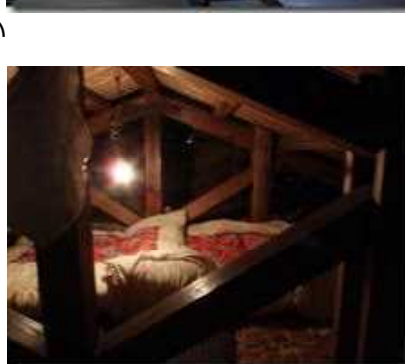
- ・二食付き7000円
(富士山の山小屋としては安い)
- ・宿泊者のトイレ無料
- ・金剛杖の焼き印サービス (右) 画像では見えにくいですが焼き印の上に朱印で「富士山頂」とまで押ししてある。
- ・夕食のカレーや朝ご飯のご飯、味噌汁、お茶・水などおかわり自由 (これは富士山の山小屋としては希少なサービスである)
- ・登頂に必要な荷物を帰路まで預かってくれる

など、他の山小屋とは一線を画すサービスで人気の山小屋である。

この日は夏休み期間とはいえ月曜日だったので、混雑することもなく、一人布団一枚以上のスペースが与えられた。

この表現を疑問に思う方もおられるだろうが、富士山の山小屋は登山者に対するキャパが小さいため、すし詰め状態が常態である。2人で布団一枚のスペースしかないとか、頭と足を互い違いにしてスペースを詰めるなどの話を良く聞く。さすがにそれはやり過ぎということで、最近では宿泊定員を絞っているらしいのだが、今度は泊まれない人が出たり、予約競争という別の問題が生じている。キャパを増やす以外に解決策はないのだが、なかなか山小屋を増やすというのも難しいらしい。

我々家族4人は、5人用の屋根裏の一角を与えられた。全くの他人と袖振り合うということもなく、多少なりともプライバシーが保てるという





富士登山



点では良かったが、蚕棚風の二階スペースを通る形になるため、出入りのたびに二階の方はかなり気を遣うこととなった。

17:00 夕食開始。



セルフサービスなので、各自が容器にご飯を盛ってカレーをかける。

このカレーが絶品である。ニンニクが入っているのが特徴。山で食べれば何でも旨い、と言うのではなく普通に平地で食べても旨いと思うだろう。当然おかわりをする。私は2杯半食べた。貴重な水も飲み放題である。

食後は休憩。頂上でご来光を見るために深夜に出発する人もいるので、基本は各自が静かに過ごすことになる。だが、私は貧乏性なので、消灯の21:00までの間、うろちょろと外へ出て、影富士を見たり、夜景を撮影したりした。



[影富士] 富士山の影が山中湖の方向へ伸びる。時間とともにどんどん伸びていく



27周年記念原稿



「影富士と十三夜月なんだよ～」と言っている



雲海を背景に登ってくる登山者



だんだんと暗くなってきた



この日は十三夜だったので月が明るく、星は期待していたほどは見えなかったが、もちろん都会の空とは段違いの星の数。久しぶりに天の川を見ることができた。





富士登山



2 : 0 0 ごろ、ご来光を山頂で見られる方が出発していく。

うちは当初からご来光は山小屋前で見ると決めていたのでスルー。この時間に、下娘と星空観察のため小屋外に出たが、まあ寒いこと寒いこと。



4 : 2 0 ご来光を迎えるための2度目の起床。

当然だが夜明け前が一番寒い。気温は5℃くらいだった。今回、防寒放湿のレインウェアを用意したが、夜・朝には必須のアイテムであることを実感した。レインウェアの下はセーターである。

小屋の前はあけもどろの東の空と、山中湖～御殿場市～芦ノ湖・伊豆半島～駿河湾という大パノラマである。



山中湖



芦ノ湖



日の出とともに小屋前で待ち構えていた人たちから「うおお」という歓声が上がる。私は自宅で毎日のように日の出を見ているが、富士山からの日の出はやはり神々しさを感じてしまい、洒落た言葉にはならなかった。



←色温度が低い(赤っぽい)夜明け直後の短時間だけ見ることができる赤富士を、その現場にて体感した。



富士登山⑤ 下山と登頂

高山病症状

朝食もセルフサービスで、ハムエッグ、ご飯・味噌汁。ご飯や味噌汁はおかわり自由。……しかし私以外の3人は食欲が無い。

相棒殿と上娘は吐き気や頭痛など高山病の症状が表れている。昨日の段階でもかなりあったと思うが、夜寝ている間に症状が悪化したようだ。

高地順応には意識して深い呼吸（とりわけ息を吐ききること）が大切と言われていたが、就寝中はどうしても呼吸が浅くなる。このため寝ている間に高山病症状が悪化することは多らしい。夜中でも深呼吸をするよう言っていたが……。

下娘も疲れが取れず、あまり登頂はしたくないようである。

どうするか。朝食の後、屋根裏部屋で輪になって家族会議である。

ここで今回の登山旅行における私なりの目標を再度記しておく。

- ① もちろん富士山の頂上への登頂である。これは学生の頃から思っていたことだ。
- ② 家族全員での登頂。これは子供が成長するに従って強く思うようになってきた。

しかし、ここにいたって、家族全員での登頂はムリである。

富士山のムック本などを読むと、高山病や疲労過多でも休み休み時間をかけて登ったという例もある。しかしそれは各自に登頂への強い意志がある場合である。

うちの家族はそこまでは思っていないし、私も体調が悪化することが分かっているのにムリをさせたくはない。

最後まで登れなかったという無念さは残るかもしれない。しかしそれを上回る、得たものも多かったはずである。

7時間半もかけて山登りをしたこと、予行でしんどい思いをして登った宝永山を遙かに見下ろす高地まで来たこと、少しずつでも歩を進めればいつかは目標の山小屋まで着くこと、影富士やご来光を見ることができたこと、赤富士の現場にいたこと、気圧の変化、高地の息苦しさ、夜・朝の寒さなどを体感したこと、ここにいないければ実感できないことを多く体験した。

十分じゃないか。

普段全く運動をしていないメンバーが3300mの高地まで登れたこと自体が、想像していた以上にがんばったことだと思う。



富士登山



さて、私自身である。

自分の強い思いで家族を引き連れてきて、ここまでで十分だと思っているのなら、一緒に下山に向かうべきである。家族を主眼にしたら当然である。

ただ、私は単独でも登りたい、という気持ちを偽ることができない。

ただでさえ普段から身体のアチコチが痛い人間である。いつ普通に歩くことさえできなくなるか分からない。自分に残された時間は体力的にはもうあまり無いのかもしれない。天気もすばらしく良い。このチャンスを逃がしたくない。

正直に家族に自分の気持ちを伝えた。

その結果、私は登頂、3人は途中の7合5勺の砂走館まで下りて休憩してもらうことになった。

砂走館は泊まった赤岩八合館と同族経営の山小屋であり、休憩をさせてもらうことをお願いした。

6：45 家族と別れ、私一人山頂を目指す。

山小屋を出るといきなりの九十九折りの急坂である。スタートからキツイが、昨日、家族で登ったときと同じゆっくりペースで登る。



見える景色が変わらないのに高度だけ上がる感じが不思議である。

20分ほどかかって、八合目跡地に着いた。たった1勺登るのに20分も！このペースだと頂上まで何時間かかるのだろう？

7合5勺で待たせている家族のこともあるし、若干ペースアップした。



広角レンズのパノラマなので誇張もあるが、地平線の丸みを実感できる。



27周年記念原稿



途中、下山してきた初老の方に富士宮ルートへの道を聞かれる。なんでも富士宮ルートで登ってきたのだが、あまりの急坂で、とても下山はできないと思って御殿場ルートで下



徐々に高度が上がっていく

りてきたとのこと。そうか、富士宮のラストは聞きしに勝る急坂なのだとわかった。

富士宮 8 合へのトラバースは昨日通過したので、詳しく教えることができた。また御殿場 6 合から富士宮 6 合へのプリンスルートもついでに教えておいた。時間はかかるが、下山のしやすさからいったらプリンスルートだろうと思うからだ。

さて、8 合を出発して約 1 時間、いつまで経っても 9 合の標識が出ない。8 合～9 合～9 合 5 勺～頂上という富士宮ルートのイメージで登っていたので、なかなか 9 合が表れないことに焦りを感じていた。

ところが、どうやら標識など無かったようで、気がつけば山頂の目印である鳥居が見えてきた。見えた段階では未だ山頂とは信じがたく、ようやく 9 合か？と思っていたのだが、鳥居が近づくとつれ、その向こうは青空のみである。

あれ？と半信半疑のまま鳥居をくぐると、あっさり御殿場ルートの頂上に到着した。



8 : 0 5

御殿場ルート頂上（3730m）に到着

標準タイムでは 8 合～頂上は 90 分なので、1 時間足らずで登ってしまったことになる。けっこうハイペースだったのかもしれない。





富士登山



富士登山⑥ 頂上アタック～御殿場7合5勺

御殿場ルートは頂上は3730m、

銀明水という御霊水が取れる井戸があり、祠が建てられている。



祠を通り過ぎると火口の岩肌が見え、さらに進むと火口の底が見える。何ともいえない荒々しさと寂寥感を感じる。

ここから5分程度、小さな丘を登って下りると富士宮ルート頂上である。こちらは浅間大社奥宮や臨時郵便局、山小屋・お土産屋などがあり、人も多く賑わっている。急に観光地に来たような気持ちになった。



下娘に頼まれていた富士山をかたどった木製のハガキを探すが、売っていなかった。後で調べたら吉田口の五合目に売っているものらしい。

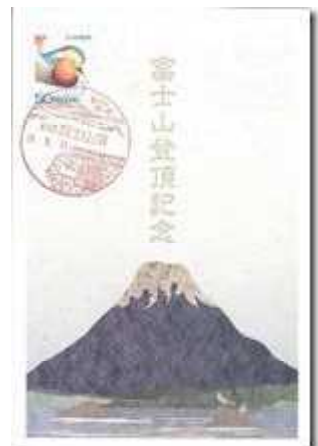
郵便局では風景印を押してもらえるので、ハガキセットを買い家族全員に出す。まあ到着するのは旅行から帰ってからだろう。



ちなみに50円以上の切手を貼れば、どんなものにも風景印を押してもらえる。

これは子どもの頃に切手を集めていた頃に得た知識だ。

絵はがきの裏に押してもらった例→





27周年記念原稿



さて、富士宮ルート頂上から富士山の山頂（剣が峰）へ。残りの標高差は46m。



剣が峰の手前は馬の背と呼ばれる超急坂、かつ砂礫で滑りやすい。ストックをしっかりと立てて登る。

富士山測候所の跡地も剣が峰にある→



8 : 45 剣が峰（標高3776m）登頂



二等三角点の説明碑



富士山頂電子基準点

ここに一人でいること、家族がいないことはやはり寂しく感じる。記念写真を撮る気にもなれず、10分そこそこで山頂を後にする。

8 : 55 下山開始

下りると決まったら7合で待たせている家族のことが気になり、急に気が急いてきた。剣が峰から御殿場8合まで55分間、写真も撮っていない。

9 : 50 御殿場8合跡地通過





富士登山



下山は膝に負担がかかる。柔らかな着地を意識して、ゆっくり歩かなければいけないのに、ストックを支えに跳ぶような感じで早足で小走り下山してしまった。これが後のトラブルの元になるのだ。

10:00 赤岩八合館（7合9勺）通過

山小屋の方にお礼を言う。山小屋の前でベテランらしい登山者が「今日登頂した人は滅多にない好天で最高やな」と話していた。そんなモノなのか、初めてにしてラッキーだったなと思う。



10:30 7合5勺 砂走館（標高3120m）到着

家族と合流する。元気そうでホッとする。高山病の最良の薬は下山であるというのは本当のようだ。

ここで昼食。うどんとぜんざいを各2つ頼む。2600円。ペットボトルの水も3本買う。1500円。これが富士山の標準価格である。

焼き印は砂走りから宝永山までカバーしている。こまめに山小屋がある吉田口では考えられない守備範囲の広さだろう。

食後に下山の準備をする。ここから先は、岩場から砂礫に、そして砂走りという砂だらけの道となる。予行で役に立った安全めがねとマスクで顔をおおい、ズボンと登山靴の間をスパッツでおおう。スパッツは一度着ける練習をしておいたので、スムーズに着用できたが、初めての時は付け方がわからないだろう。まわりでも山小屋の方やベテランの方が初心者と思われる人に教えていた。

富士登山⑦ 大砂走りて下山

11:25 下山再開。7合（標高3070m）を過ぎると下り専用ルートとなり、砂走りが始まるのだが、宝永山までは岩も多く、スピードは出せない。



山中湖を眼下に、どんどん下る。



砂走りの始まりだが、まだ岩も多い。



27周年記念原稿



11:54

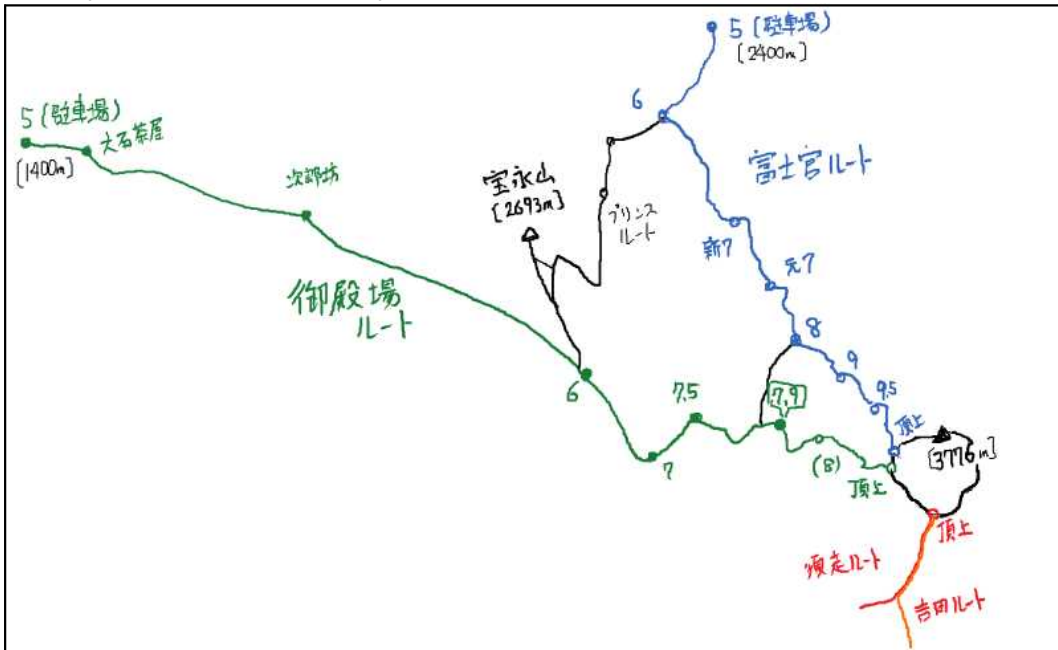
徐々に宝永山が
近づいてきた



12:02

12:05 御殿場6合（標高2800m）

宝永山分岐まで下りてきた。ここからプリンスルートで富士宮ルートへ戻ることもできる。しかし大砂走りの魅力はここからである。一步で3mも、まさに跳ぶように下れるというのが魅力の大砂走りである。ここを下りたいがために、わざわざ昨日、車を御殿場ルートの駐車場に置いてきたのだ。



しかし、なんということか私は……、ここに来て頂上からの下りを急いでムリをしたのが祟り、右膝が…。体重をかけるたびに痛みが走る。ヤバい！

富士宮ルートを上っているとき、何人も足を引きずるように下っている登山者を見た。たった一度の登山でムリをして、何ヶ月も痛みを引きずるなんて愚の骨頂、とか思っていたのに…、自分もやってしまった。

もはや、大砂走りが楽しめないということより、このまま無事に下山できるのだろうかということが問題になってきた。しかし……車は御殿場5合にある。

もう、だましだましでも御殿場ルートを行くしかない。ということで痛い右膝をかばいながらの大砂走りスタートとなった。もちろん走るなどできない。



富士登山



標高1440mの駐車場まで
高低差1360mをまっしぐらに下りるルート。
元気になった子どもたちがどんどん先行する。

6合からはほぼ直線ルートなので、御殿場5合の駐車場は早い時期から見えていた。しかし、これがなかなか近づかない。特に私は膝を痛めてしまい、早く戻りたいとばかり考えていたので、すぐそこにあるように見えるゴールに到達できないのは、かなりもどかしかった。



ときどき止まって待っている



13:40

次郎坊（標高1930m）

次郎坊からは頂上アタックとは別の意味で一人となった。

私の膝がとても悪くなり、3人とスピードがあまりに合わないためだ。そこで五合目の大石茶屋で待ち合わせをすることにして、先行してもらうことにした。



27周年記念原稿



後ろ向きに歩くと、膝が痛くないことは早い時期に分かっていた。この区間はほとんど後ろ向きになって、ストックを支えに後ろに足を出すようなスタイルで歩くことにした。まっすぐな道で、障害もなく、仮にこけたとしてもふわふわの砂なので安心である。まあこの姿を人が見たら、変に思うだろうが、幸いガラガラの御殿場ルートである。



山小屋へ荷物を運ぶブルドーザ

まるで月面の世界のようなものである

この後ろ歩きは結果的に非常に良かった。膝を伸ばす効果もあったのか、絶対に後遺症が残ると思っていたのに、旅行後も翌日の筋肉痛を除いて何ともなかった。

後ろ向きに歩くと、自然に富士山を眺めるような形になる。この歩き方で何とかゴールにたどり着けそうだという見込みもたった。本当に牛歩の歩みであるが、遠ざかっていく富士山を見ながら、しみじみ感謝の気持ちが沸いてきた。陳腐かもしれないが自然に対する畏敬の念というものを、この年になって実感したのかもしれない。



大砂走り 左が下山者の巻き上げる砂煙 右のジグザグが登山道である 右上が富士山頂上



富士登山



14:45 御殿場5合 大石茶屋（標高1500m）到着

6合から2時間40分、大石茶屋に到着。私以外の3人は30分以上前に到着していたらしい。

ようやく戻ってきた、というのが実感だ。達成感というより、無事に帰ってくることができて良かったという安堵感の方が強かった。



かき氷で乾杯をする。

子どもたちはここで金剛杖に最後の焼き印を押してもらおう。

休憩した山小屋全てで押してきたので、富士宮5合から8合までと御殿場8合～5合までの全ての焼き印が押されている。富士宮ルートと御殿場ルートの両方の焼き印が押されたゴージャスな金剛杖の完成に、山小屋の方には大げさに感心してもらった。子どもたちも嬉しそうであった。



16:10 御殿場5合駐車場（標高1440m）

一日半ぶりに車に戻った。着替えや荷物整理をする。砂だらけである。軍手や靴下の中まで砂が入り込んでいる。粒子の細かい火山灰なので、皮膚の凹みにまで入り込んでおり、黒い筋になって見えたのには驚いた。

登山靴を脱ぎ、厚手の靴下も脱ぎ、長袖シャツを脱ぎ、夏の普段着に着替えた。つい先ほどまでの登山での疲労感や、足先の痛み、膝の痛みは感覚としてまだあるのに、急に日常生活に戻ってきた。不思議な感覚である。

レンタル品を送られてきた袋に入れてトランクを閉じ、ヒグラシの鳴く駐車場をあとにして、、、登山が終わったことを感じた。

了

ブログの文章に加筆したのでだらだらとした長文となってしまいました。

少しでも富士山の空気が伝われば嬉しいです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。 m(_ _)m